

●User's Voice●

長崎外国語大学 外国語学部国際コミュニケーション学科 春口淳一先生

<http://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/>

『J.Bridge to Intermediate Japanese』を必修科目（日本語ⅢC）の授業で使用。

長崎外国語大学の日本語授業の特徴を教えてください。

学年別、レベル別に11段階の日本語教育プログラムを用意。コース所属学生は、卒業要件として日本語科目を24単位以上履修する。学習目的は進学、就職、日本語、日本文化への興味。

本テキストの採用理由は何でしょうか。

初中級クラスを終了したものの日本語力が伸び悩んでいた学生を集めて、下位クラスを創設するにあたり、初中級レベルまでの文型を復習させることのできる総合テキストを与えたかった。2010年3月に著者の小山悟先生に本学まで足をお運びいただき、『J.Bridge to Intermediate Japanese』の活用法についてご講演いただいたことも契機の一つ。

本テキストを使用した授業時間はどのくらいですか。

- ・授業回数 90分×4コマ/週、総時間数 約90時間
- ・コース期間（テキスト使用期間）春学期（4月～7月）

本テキストの長所はどんなところでしょうか。

このテキストは文法や文型の提出が後付けで行われるので、既習の学習項目であっても飽きることなく取り組むことができる。トピックもユニークなものが多く、使っていて楽しい。

（「第2課ステップ3 日本の観光地 長崎」は私どもにはありがたかった。）

学生さんからの感想があれば教えてください。

内容に集中できるので、そこから積極的な発話も生み出されているように思える。

本テキストを使用して、学生さんの力が伸びたと感じられる分野はありますか。

聴解、文法、語彙/表現。